

第33回 日本・ASEAN経営者会議

「グローバル化における、日本とASEANの経済的パートナーシップの更なる深化」
(2007年10月31日～11月2日・東京)

20 07年10月31日～11月2日の日程で、「第33回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM)」が東京の帝国ホテルで開催された。今回の会議は「グローバル化における、日本とASEANの経済的パートナーシップの更なる深化」をメインテーマに掲げた。日本側から52名、ASEAN (ラオスを除く9カ国) 側から51名、韓国からオブザーバー資格で3名の経営者が参加した。副代表幹事・アジア委員会委員長の萩原敏孝氏が議長を、シャザリ・スレイマン氏 (ブルネイ代表) が共同議長を務め、環境・物流・人材育成をテーマにした3つのセッションを中心に、幅広い意見交換が行われた。

1. 開会式

開会式では、萩原敏孝議長が開会挨拶を行い、「アジア諸国がさまざまな分野において関係を深めつつある今こそ、AJBMが築いてきた信頼とネットワークは真価を発揮する」と述べた。次に、桜井正光代表幹事が挨拶に立ち、「ASEANは世界経済の牽引役としての役割が期待されているが、日本・ASEAN包括的経済連携協定が妥結となれば、経済一体化の流れが加速する。今後は、互いに知恵を持ち寄り、新たな枠組みをつくり上げていくAJBMの知的貢献がますます



開会式 (左から、木村仁外務副大臣、甘利明経済産業大臣、桜井正光代表幹事、萩原敏孝議長、シャザリ・スレイマン共同議長、ドミンゴ・L・シアゾンJr. 駐日フィリピン大使)

<日本側会議参加者>

●正副代表幹事

桜井 正光 代表幹事/リコー 取締役会長執行役員
小島 邦夫 専務理事・副代表幹事
大橋 洋治 副代表幹事/全日本空輸 取締役会長
長谷川 閑史 副代表幹事/武田薬品工業 取締役社長

●アジア委員会正副委員長

萩原 敏孝 副代表幹事・アジア委員会 委員長/小松製作所 相談役・特別顧問
岡部 正彦 アジア委員会 副委員長/日本通運 取締役会長
梶 明彦 アジア委員会 副委員長/ジャルパック 取締役社長
佐藤 龍雄 アジア委員会 副委員長/昭和電工 取締役専務執行役員
菅田 史朗 アジア委員会 副委員長/ウシオ電機 取締役社長
玉越 良介 アジア委員会 副委員長/三菱東京UFJ銀行 取締役副会長
松田 章 アジア委員会 副委員長/丸紅 取締役副社長執行役員
山口 千秋 アジア委員会 副委員長/トヨタ自動車 常勤監査役

ほか40名が参加 (敬称略・役職は会議開催当時)

重要となる」と述べた。

これに対してシャザリ・スレイマン共同議長は、「日本とASEANの関係は、官民両レベルにおいて非常にオープンなものとなり、情報交換も双方向に密になってきた。経済がボーダレス化し、国際競争力の強化が急務となっている今、特に中国やインドの経済的台頭は、

ASEANに大きな課題を突き付けている」とし、これまで以上の関係強化を呼び掛けた。

続いて、甘利明経済産業大臣が基調講演を行い、東アジアの経済統合に向けた日本政府の取り組みとして、現在、日本・ASEAN包括的経済連型協定の締結に向けて努力しているが、さらに推し進め、中国・韓国・イ

ンド・オーストラリア・ニュー
ジーランドを含めた東アジア包
括的経済連携（CEPEA）を提唱
している、とした。さらに、域
内の英知を結集する政策提言機
関、東アジア・アセアン経済研
究センター（ERIA）の設立も提
案しており、こうした動きが実
現すれば、民間主導で進んでき

た経済統合の実情に、政府とし
てもようやく追いつくことにな
る、との認識を明らかにした。

また、木村仁外務副大臣によ
る、福田康夫総理大臣挨拶の代
読があった。福田総理は、今年
のAJBMのテーマのひとつであ
るエネルギー・環境問題は東ア
ジア首脳会議でも取り上げられ

る課題であり、政府としてもア
ジア諸国と共に取り組んでいく
という姿勢を表明した。

最後にドミンゴ・L・シアゾン
Jr.駐日フィリピン大使が来賓
挨拶を行い、世界経済システムの
脆弱性、中国の台頭など、
ASEANをめぐる厳しい競争環
境を指摘した。その上で、パート
ナーとしての日本に大いに期待
していると語り、日本との経済
連携協定実現への期待を示した。

会議プログラム

1日目（10月31日）

AJBM推進会議
歓迎夕食会

2日目（11月1日）

開会式

開会挨拶	萩原 敏孝	第33回AJBM議長（アジア委員会 委員長）
挨拶	桜井 正光	経済同友会 代表幹事
挨拶	シャザリ・スレイマン	第33回AJBM共同議長（KPMGパートナー、ブルネイ）
基調講演	甘利 明	経済産業大臣
総理挨拶代読	木村 仁	外務副大臣
来賓挨拶	ドミンゴ・L・シアゾン Jr.	東京ASEAN委員会議長（駐日フィリピン大使）

第1セッション「エネルギー・環境問題への域内協力」

議長 菅田 史朗
コメンテーター 松田 章

昼食会

ゲストスピーカー 田中 均
日本国際交流センター シニアフェロー
東京大学 公共政策大学院 客員教授
元外務審議官

第2セッション「域内物流ロジスティックスの整備と改善」

パネリスト 岡部 正彦
コメンテーター 梶 明彦

第3セッション「ASEANにおける人材育成と域内の人の移動」

パネリスト 山口 千秋
コメンテーター 佐藤 龍雄

閉会式

挨拶	ASEAN各国代表（8名、除くブルネイ、ラオス）
挨拶	桜井 正光
挨拶	シャザリ・スレイマン
閉会挨拶	萩原 敏孝

夕食会

来賓挨拶	谷内 正太郎	外務事務次官
来賓	赤尾 信敏	国際機関日本アセアンセンター 事務総長
来賓	ASEAN各国駐日大使	（5名参加）

3日目（11月2日）

AJBM推進会議
記者会見

※各セッションについては日本側参加者のみ記載。敬称略

2. 第1セッション

第1セッションは菅田史朗氏
が議長を務め、「エネルギー・環
境問題への域内協力」をテーマ
に討議を行った。コメンテー
ターとして参加した松田章氏は、
「原油価格の高騰に伴い、環境破
壊が進む一方で、代替燃料開発
の契機ともなり得るという指摘
は的確だ。バイオ燃料を含む代
替燃料の開発やCDMへの取り組
みについては、双方のエネルギー
安全保障や経済発展の観点から、
共に取り組むべき課題は多い」
との見解を表明した。

3. 昼食会

昼食会には、日本国際交流セ
ンター シニアフェローの田中均
氏が招かれ、東アジア共同体の
ビジョンについて講演を行った。
田中氏は、これから30年間はア
ジアの時代となるのではないか、
との認識を明らかにした。そう
したチャンスを生かし、一方で
存在するリスク要因を抑え込む
ためには、東アジア経済共同体
を推進するのが好ましく、それ



開会式で挨拶する桜井正光代表幹事



開会挨拶を行う萩原敏孝議長

も多層的枠組みで実現することが有効である、とした。透明性確保、ソフト面でのインフラ整備という観点から、メンバー構成は『ASEAN+3』にインド、オーストラリア、ニュージーランドを加えることが望ましく、さらに、非伝統的安全保障を扱う仕組みも必要ではないかと論じた。

4. 第2セッション

第2セッションは、「域内物流ロジスティックスの整備と改善」をテーマに討議が進んだ。パネリストの岡部正彦氏は、「物流インフラ環境の整備の度合いは、ASEAN域内でも大きく異なる。域内全体の最適を考慮した、効率的なインフラ整備が求められる。輸出入手続きの簡素化や人材育成などの要素も重要である」と指摘した。

また、コメンテーターの梶明彦氏は、「ロジスティックスとは、単にモノを輸送することではなく、生産から消費までの一貫した流れを取り込む経済の動脈のようなものであることがわかった。ロジスティックス網はモノのみならず、情報の流通をも豊かにする。そのインフラ整備には国家が深くコミットする必要がある」と述べた。

5. 第3セッション

第3セッションは、「ASEANにおける人材育成と域内の人の移動」をテーマに掲げた。パネリストの山口千秋氏はトヨタのASEAN進出時の事例を紹介しな



記者会見（左から、M・A・クスモ氏＝インドネシア代表代理、N・S・フン氏＝マレーシア代表代理、キン・シュウエ氏＝ミャンマー代表、セサル・ヴィラタ氏＝フィリピン代表、シャザリ・スレイマン共同議長＝ブルネイ代表、萩原敏孝議長、桜井正光代表幹事、セシル・レオン氏＝シンガポール代表、ワンチャイ・クナンタクル氏＝タイ代表）



開会式で基調講演を行った、甘利明経済産業大臣

がら、「徐々に生産体制を高度化し、域内分業の実現を図った。さらには世界規模での最適な生産・供給体制の確立を目指し、独自のプロジェクトを発足させた。これらの実現を支えたのは、自立化した労働者の存在である」と発言した。

また、コメンテーターの佐藤龍雄氏は、「日本の製造業は、中核技術を国外に持ち出さないところが多いと思われるが、真の現地化を成し遂げるには、そうした障害を乗り越える必要がある」とし、現地労働力の積極登用や、アジアの若い労働力の有効活用など、後の検討課題を指摘した。

6. 閉会式

閉会にあたって、萩原議長、スレイマン共同議長、桜井代表



共同議長を務めた、シャザリ・スレイマン氏（KPMGパートナー、ブルネイ代表）

幹事、各国代表が発言を行った。そこでは、「①日本・ASEAN間の協力関係のさらなる強化が重要である。②各自が抱える課題に果敢に挑んでいくことが両者の親密な関係の基盤となるので、今後AJBMの知的構想力が重要となる」という2点について共通の認識が確認された。

7. 夕食会

夕食会では、谷内正太郎外務事務次官がスピーチを行った。谷内氏は、日本とASEAN間の活発な経済関係は、心と心が通じ合う個々人間の信頼関係が存在してこそ成り立つとし、より一層密な意見交換の場としてのAJBMへの期待を示した。

●次回のAJBMはブルネイ開催

2008年は、第34回AJBMの準備会合がフィリピンで、第34回AJBMがブルネイで、それぞれ開催される。